

大学コンソーシアムあきた「中大連携授業」 第1回授業が開催されました

秋田県内の大学・短大の連携組織「大学コンソーシアムあきた」では、地域貢献活動の一環として、大学教員が中学生の「学び」へのサポートを行う「中大連携授業」をはじめました。

その第1回授業が次のとおり実施されましたのでお知らせします。

✎ 中大連携授業とは・・・

大学コンソーシアムあきたは既に「高大連携授業」(高校生向け企画授業)を実施していますが、中等教育部門との連携・協力をより深めるために、中学校の総合学習の場を活用して様々な分野の研究者・教員が、子どもたちの「考える力」などの育成を目指す企画授業も実施します。

(第1回授業)

「シラス観察を通して学ぶ海洋生態系の不思議」

- 1 日時 平成19年9月26日(水)午後1:30~3:45
- 2 会場 秋田市内中学校
- 3 対象 同中学校の3年生生徒全員
- 4 講師 秋田大学教育文化学部 石井照久 准教授(自然環境講座)
同大学生11名がアシスタントとして参加

授業の目的

ふだん身近に売られている食品「シラス」を目を凝らして観察する実験を通して、食物連鎖を含む生態系の概念に触れ、地球環境問題への意識を高める。

実験や討論・講義を通じて自ら考え、より科学的なものの見方や考え方を学ぶ。

大学生との交流を通じて、将来の進路選択について主体的に考える力を高める。

授業の内容・進め方

- 1 海洋生物についての講義
- 2 生徒によるグループ実験および討論(講師および大学生による補助)
グループごとに仮説をたてる。産地、時期からしてどのような生物がシラスに混じっているかを予想する。
実際に、シラスを観察しデータ(結果)を出す。
グループごとにデータ(結果)について討論を行う。
全体のデータ(結果)をまとめ、討論を行う。
- 3 大学生との交流(生徒の進路の参考に)
- 4 まとめ(講師からのメッセージと生徒感想)



授業の様子

6~7人のグループに分かれて着席。海洋生物に関する講義(30分程)では、はじめに、海洋生物が学術的にどのように分類(門)されているのか、などについての講義を受けた。

シラスはどのような漁により獲られているのかなどから、観察材料に含まれるシラス以外の生物へ想像を膨らませ、グループ毎に混じっている生物について「仮説」を立てた。

実際に観察材料のシラス干しを竹串で分け、ルーペで観察しながら分析し、仮説が正しかったかどうかを検証した。

仮説を検証し、その結果を発表・討論するというスタイルで授業を進めたが、大胆な発想による仮説を立てられたグループは少なかったように思われた。

検証結果を全体でまとめた後、講師から「シラス干しを観察するだけでなく、その産地や季節などのことも思考することが重要」などの講評を得て、より科学的なものの見方や考え方の一端を体験し、食物連鎖や地球環境などへも理解を深めた。